

『時が良くても悪くても』 (要旨)  
 聖書箇所：Ⅱテモテ4章1節～5節

あなたは大切な人に何を遺すでしょうか。パウロはテモテに「みことばを宣べ伝えなさい」と語りました。今朝の聖書箇所から、パウロの遺言をともに耳を傾けます。

【1】「みことば」はいのちの糧

パウロはテモテに自分の死が近いことを自覚して厳粛に命じました。「… (イエス) の現れとその御国を思いながら、私は厳かに命じます。みことばを宣べ伝えなさい」(Ⅱテモテ4:2)と。

なぜパウロは大切な手紙の最後に「みことばを宣べ伝えなさい」と命じたのでしょうか？

私たちのからだは生きるために食物が必要です。したがって日々の糧を得ることができるか否かは死活問題です。実はそれと同じように、私たちのたましいも飢え渴きを覚えます。

「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように 神よ 私 のたましいはあなたを慕いあえぎます。私 のたましいは 神を 生ける神を求めて 渴いています。」(詩篇42:1-2)

私たちの肉体が食物を必要とするように、私たちのたましいも「たましいの糧」が必要なのです。さて聖書のみことばは、そうした私たちのたましいの糧です。それはテモテが幼い頃から学んできた聖書のことばであり福音です(Ⅰテモテ3:14-16)。この「みことば」は人のたましいの飢え渴きを真に満たすことができるのです。

【2】みことばを宣べ伝えなさい

さてパウロはテモテに「宣べ伝えなさい」と言いました。この言葉は、王が民に向かって出した告示の宣言、伝達をあらわすのに用いられた言葉です。では何を伝達するよう命じられているのでしょうか。それは「みことば」です。このパウロの命令は実にシンプルです。テモテには自分が学んで確信した「みことば」を伝えるようにと命じました。それは人の知恵や経験が人を救うのではなく、聖書のみことばそのものに人を救う力があるからです。

「…心に植えつけられたみことばを素直に受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます」(ヤコブ1:21)

この命令は、テモテに、そして福音を受け入れる一人一人に向けたパウロの遺言なのです。

【3】時が良くても悪くても

パウロそしてテモテが置かれた状況は、みことばを語るタイミングとしては良くありませんでした。

「…というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。」(4:3-4)

おそらく周りの人々の反応を想像すると、みことばを伝えるには、まだ早いかな…と覚えてしまうこともあったでしょう。しかし受け手の反応を気にしすぎると伝えるべきことばを十分に語る機会を逃してしまいます。そもそも人間の肉の性質は、耳痛い「健全な教え」ではなく「耳に心地よい話」を求めます。パウロはこうした受け手のことを良く理解できる人でした。しかし真っ直ぐに伝えるべく努力をしました(4:17)。そして萎縮することなく大胆にみことばを伝えることができるよう教会の仲間にとりなしの祈りを要請しました。それは、生きる意味を見出せなくなった人、悩みに押しつぶされた人、そして明日への希望を見出せず絶望している人に、真のいのち、なぐさめ、そして希望であるイエス・キリストを指し示し、救われて欲しいと願っていたからです。

あなたは、たましいの飢えや渴きを覚えることがありますか。主イエスは言われます。「わたしはいのちのパンです。あなたがたの先祖たちは荒野でマナを食べたが、死にました。しかし、これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことはありません」(ヨハネ6:48-50)と。

▷あなたも今日、いのちのパンであるイエス・キリストを心にお迎えしませんか。イエスのもとに来て、イエスを信じる者は、どんな時も、決して飢え、渴くことはありません(参照:ヨハネ6:35)。

